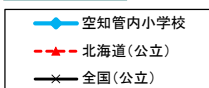


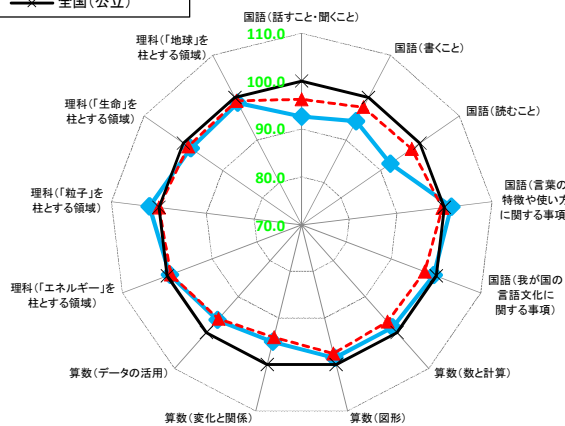
2 管内の状況、分析及び学力向上策

■空知管内の状況及び学力向上策（小学校数：56校、児童数：1661人）（中学校数：39校、生徒数：1659人）

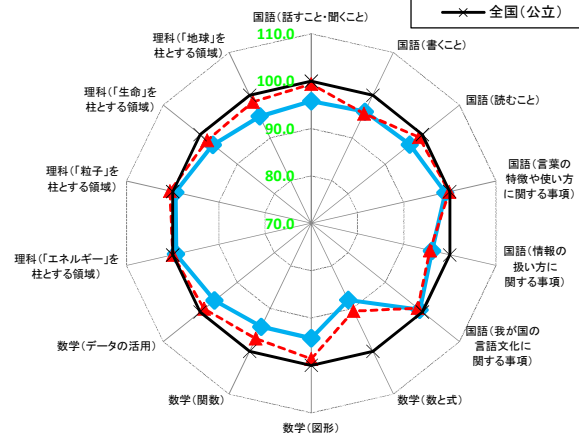
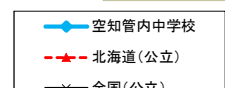
小学校【教科全体の状況】



平均正答率	小学校国語	小学校算数	小学校理科	中学校国語	中学校数学	中学校理科
空知管内	63[63.4]	62[61.8]	63[63.0]	68[68.0]	47[47.4]	48[48.2]
全国	66[65.6]	63[63.2]	63[63.3]	69[69.0]	51[51.4]	49[49.3]

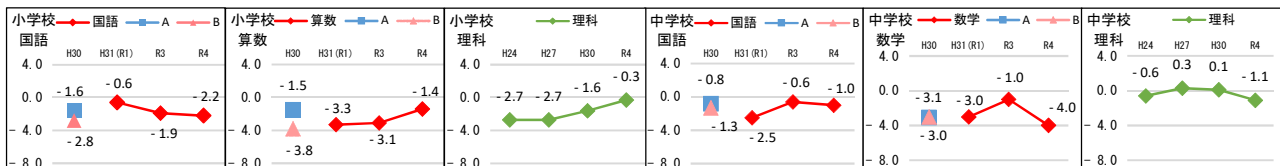


中学校



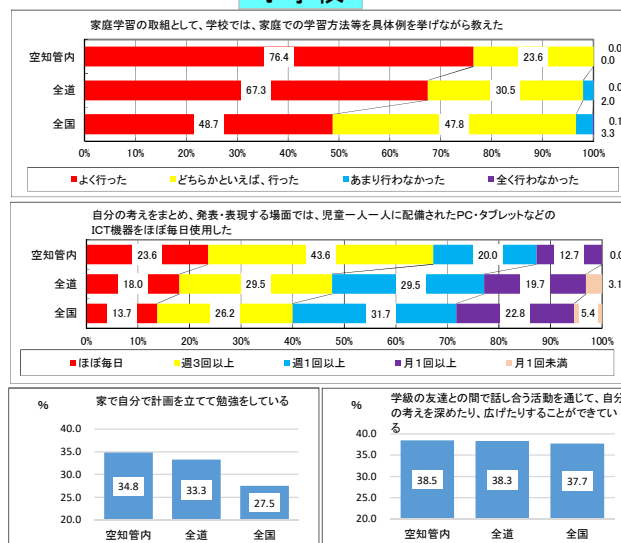
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び管内の状況をレーダーチャートで示したもの（管内の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

【平均正答率の推移】「管内の平均正答率－全国（公立）の平均正答率」の経年変化

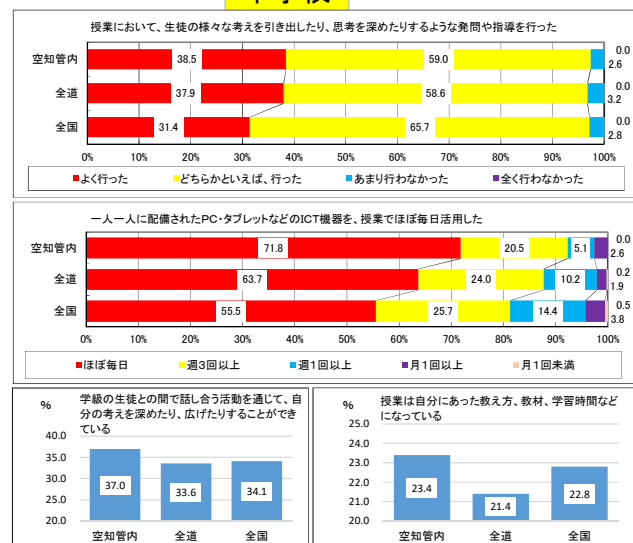


【質問紙の状況】

小学校



中学校



小学校

管内の多くの小学校において、「オール空知の取組」により、家庭学習の取組として、学校では、家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えたことにより、家で自分で計画を立てて勉強している児童の割合が、全国及び全道を上回ったと考えられる。

管内の多くの小学校において、「オール空知の取組」により、自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日使用したことにより、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりしている児童の割合が、全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

管内の多くの中学校において、「オール空知の取組」により、授業において、生徒の様々な考えを引き出し、思考を深めたりするような発問や指導を行ったことにより、学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりしている生徒の割合が、全国及び全道を上回ったと考えられる。

管内の多くの中学校において、「オール空知の取組」により、一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でほぼ毎日活用したことにより、授業が自分にあった教え方、教材、学習時間などになっている生徒の割合が、全国及び全道を上回ったと考えられる。

【空知管内の学力向上策】については、次ページの学力向上の取組を参照ください。

空知管内における学力向上の取組

1. 管内課題と重点的な改善策

(1) 全国学力・学習状況調査やC R T・N R T検査、「ほっかいどうチャレンジテスト」等を活用した取組

■各学校で行っている各種調査の自校採点、分析、具体的な改善方策が、児童生徒の「確かな学力の定着」につながっているかを確実に検証できる校内体制を確立し、各学校が確実に「学びの質の向上」につなげる取組を推進

- 学習の習得状況の把握と指導の改善を通して「わかった」「できた」という自信を育成する取組の推進
- 日常の授業から、調査問題等を評価問題に活用し、個の状況を踏まえた学び直しを大切にする取組の推進

(2) 学校全体での授業改善とICT環境を最大限活用した取組

■授業改善の成果を全ての教員の取組として浸透させるための具体的な学校全体の取組や、1人1台端末など、ICT環境を最大限活用した「個別最適化学び」と「協働的な学び」を充実

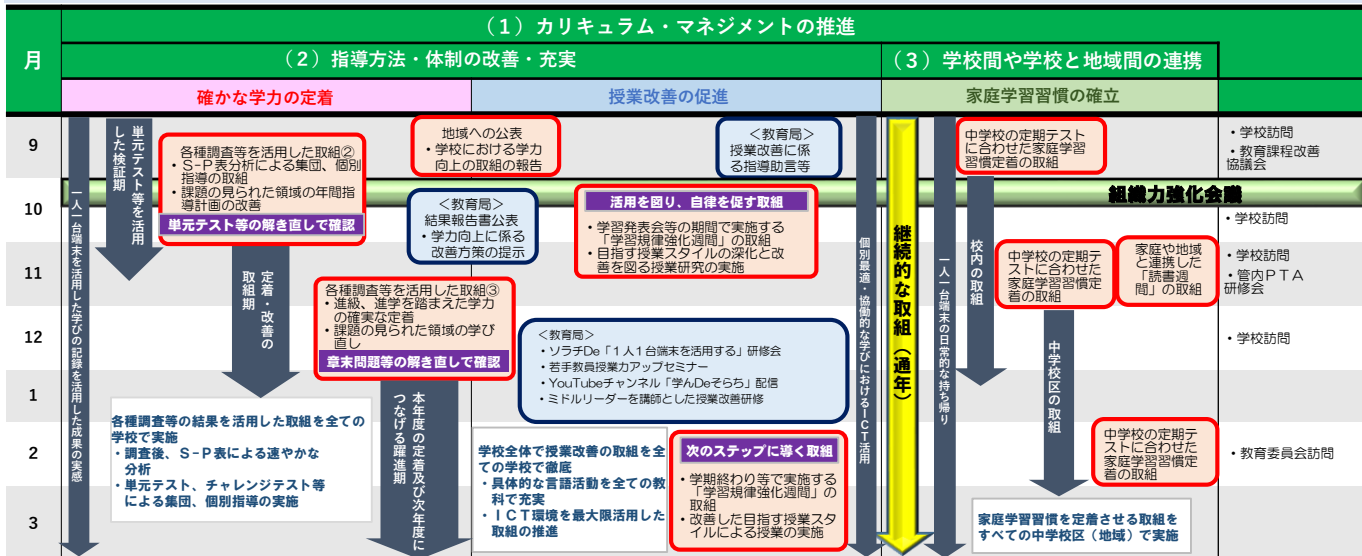
- 学びのスタイルを4月に示し、授業改善を“D（実行）モード”で推進
- 「教員の授業改善」と「子どもたちの学習に臨む姿勢の形成」を一体的に捉えた取組の推進
- ICT端末を日常的に授業の中で活用
- 1人1台端末を活用した個別最適化学びと協働的な学びの展開

(3) 保護者や校種間と連携した家庭学習習慣を定着させる取組

■家庭学習習慣の定着に向けた、家庭や他校種と連携した取組の一層の推進

- 「家庭学習と授業」の結び付きを理解させ、児童生徒が意欲をもって家庭学習に取り組めるようにする取組の推進
- コミュニティ・スクールを生かし、地域一体での「学習習慣の定着」「ゲームやメディア利用の制限」「本や活字に触れる機会の拡充」等の取組の推進

2. 具体的な取組



3. 取組の評価

(1) 全国学力・学習状況調査や「ほっかいどうチャレンジテスト」等を活用した取組

①「全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけでなく、学校全体で教育活動を改善するために活用した。」(R3学校質問紙調査)

・現状 小…61.4%、中…50.0%(R3)
・目標 小…80.0%、中…80.0%
・達成値 小…78.2%、中…66.7%

②「児童生徒の学習評価の結果を、その後の教員の指導改善や児童生徒の学習改善に生かすことを心がけた。」(R3学校質問紙調査)

・現状 小…50.9%、中…22.5%(R3)
・目標 小…80.0%、中…80.0%
・達成値 小…56.4%、中…38.5%

(2) 学校全体での授業改善とICT環境を最大限活用した取組

①「教職員は、校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させている。」(R3学校質問紙調査)

・現状 小…8.8%、中…20.0%(R3)
・目標 小…50.0%、中…50.0%
・達成値 小…70.9%、中…64.1%

②「ICT機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができています。」(R3学校質問紙調査)

・現状 小…49.1%、中…42.5%(R3)
・目標 小…100.0%、中…100.0%
・達成値 小…61.8%、中…71.8%

(3) 保護者や校種間と連携した家庭学習習慣を定着させる取組

①「家庭学習の課題の課し方について、校内の教職員で共通理解を図った。」(R3学校質問紙調査)

・現状 小…61.4%、中…35.0%(R3)
・目標 小…80.0%、中…80.0%
・達成値 小…67.3%、中…56.4%

②「学校では、児童生徒に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えるようにした。」(R3学校質問紙調査)

・現状 小…73.7%、中…35.0%(R3)
・目標 小…80.0%、中…80.0%
・達成値 小…76.4%、中…51.3%

4. 改善点

(1) 確かな学力の定着

- ・10月に実施の「組織力強化会議」において、全国学力・学習状況調査の結果に基づき、自校における下半期の取組の明確化を図るとともに、学校教育指導訪問等において、改善状況の把握と「オール空知の取組」に基づく具体的な今後の取組等についての助言により、各学校へのフォローアップを行う。
- ・教育局において、質問紙調査の結果から「オール空知の取組」による改善状況を分析し、下半期の改善の方向性を各学校に示す。
- ・小・中・高を対象とした局独自研修を開催し、義務教育と高校教育の連携による、学力向上に向けた方向性について共通理解を図っていく。

(2) 授業改善の促進

- ・1人1台端末を活用した授業改善を一層加速させる必要があることから、管内で優れた実践をしているミドルリーダーを講師とし、小・中・高が対象の局独自研修を開催し、各学校における授業改善を促進させる。
- ・局独自の「若手教員授業力アップセミナー」を小・中・高を対象として複数回開催し、校種を超えた管内若手教員の授業力向上を図るとともに、義務教育と高校教育の連携による授業改善を促進させる。
- ・空知教育局YouTubeチャンネルを活用した授業改善動画の配信を充実させ、各学校における校内研修等での活用により校内研修の充実を図る。

(3) 家庭学習習慣の確立

- ・「オール空知の取組」の推進により、家庭学習習慣の取組に改善の傾向が見られつつあることから、これまでの小中連携による効果的な家庭学習の取組や中学校区における「家庭学習強化週間」の取組に加え、1人1台端末の日常的な持ち帰りによる家庭学習の好事例を収集・発信し、各地域や学校における取組の一層の充実を図る。
- ・社会教育指導員による「空知親子・地域連携セミナー」において、地域、保護者に望ましい生活習慣、家庭学習習慣に関わる効果的な取組等に向けた改善方策を示すなど、各学校への支援を行う。